

ディエアコニア



いのちの価値

牧師 森 史子

『人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があるのか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。』

マルコによる福音書 8章36・37節

平成から令和に時代が移っても、人の命を軽視したり、命を奪ってしまう事件が続いています。特に新聞やTVで大きく取り上げられた家庭内で子供の命が奪われた事件は、日本中に衝撃を与えました。その背景にはDV、虐待が隠れていて女性支援の現場では、無念さをたくさん味わわれました。日本は、原爆の被害で戦争の悲劇を味わい、震災や水害でも多くの命を失ってきました。それなのに命を尊ぶ思いが、どんどん失われて行く

ようでもとても悲しいです。

それは、人の価値を私たち人間が決めてしまっているからではないでしょうか？ その基準となるものは何なのでしょう。財産・権威・経済力でしょうか？

冒頭の聖句は、イエス・キリストのことばです。主イエスは、人間のいのちの価値を正しく語っておられます。

人の命は、世界中のどんな素晴らしい価値あるものをもってしても、比べられることができないほど尊いものであると語られました。本当に価値のあるものは、お金には替えられないものです。ましてや人間の命をお金に変えるなど、できることではありません。

昨年、友人の息子さんが交通事故で亡くなりました。相手の一方的な過失でした。まだ三十歳の若さでした。残された妻と幼い子供たちに対して慰謝料が支払われました。命に値段が付けられたのです。

しかし、家族にとって慰謝料は何の慰

めにもなっていません。寄り添う友人が伝える主イエスのことばと祈りに、小さな慰めを得ています。そして、失った命の価値を知らされるのです。

一度命を失ってしまったら、どんな代価を払っても、その命を買い戻すことはできません。主イエスは、それほど人間の命には、価値があると教えています。

しかし、現実には人間の命の価値は恐ろしいほど低いのです。中でも子供や女性、障碍など生き辛さを抱えた人たちの命は、守られるどころか粗末に扱われ、奪われることも少なくないのです。

この現実には、人間の尊厳に関わる大きな問題です。社会的な身分、貧富の差、人種、老若男女により、命に区別があるのです。そして、その区別・差別は、人間が作っているのです。

神は人間の命は尊く、みな同じ価値があるとっておられます。それは、肉体の命だけではなく（霊的ないのち）のこ

私たちの命は、誰から与えられたのか？ 神が、与えてくださったのです。

万物の創造主である神は、何者にも代え難い存在として人類を創造し導いておられます。だが、神を無視して自己中心に生き、神と共に生きる人生(命)を失っている人が、何と多いことか。

しかし、神は私たちに新しい命(神と共に永遠に生きるいのち)を与えてくださったのです。

永遠のいのちを得るには、神の御子イエス・キリストの十字架の死が、自分の過去・現在・未来の罪(自己中心な自分の代価であることを受け入れ、信じる必要があります。この永遠のいのちを失うことがないように主イエスは、待つておられます。

2011年10月18日、イスラエルの国防軍の若い兵士「ギルアド・シャリート」が、パレスチナ人テロ組織から釈放されました。彼は、パレスチナ側ガザ地区でテロ組織によって誘拐され5年半・1941日間監禁されていたのです。イスラ

エル軍は、この間テロ組織と交渉を続けてきました。そこには、彼の両親の愛情と神への信頼が働いていたのです。

5年間経過して、ようやく相手側が条件を出してきました。その条件は、驚くものでした。イスラエル軍に拘束されているパレスチナ人テロリストの解放ですが、何とその人数は1000人以上。しかし、イスラエル軍は相手側の要求通り、テロリスト1027人の解放を決定して実行しました。1人对1027人の解放条件に、相手側は勝利だと大喜びをしています。しかし、イスラエル側もギラット・シャリートの解放を喜び伝えました。イスラエルは、神に従い一人の命を取り戻したことが、大勝利だと報じていました。

このニュースの後日談を聞く機会がありました。その中で、イスラム教徒の方からイスラエルに対してメッセージが届いたことを聞きました。その内容は、イスラエルの決断を高く評価するもので、最後に「あなた達の神を褒め称えます」と書かれていたそうです。

わたしは、以前婦人保護施設の現場で働いていたこともあり、対人業務の厳しさも経験しました。人の人生・人の命に向き合う現場で、仕事を優先し過ぎて自分を大切に出来なかったことを思い出します。主イエスは、私たちの肉体の命、弱さ、病など背負っている苦悩からの解放も十字架の死をもって贖って下さっています。

一人の命の価値は、全世界より重い。「わたしの目にあなたは値高く、貴く、わたしはあなたを愛し、あなたの身代わりとして人を与え、国々をあなたの魂の代わりとする」。預言者イザヤを通して語られた神のことばです。イエス・キリストがその約束を完全に成就してくださいました。

私たちは、すでに神の恵みの中で生かされていることを忘れずに、感謝して生きて行きたいものです。

(ベテスタ奉仕女母の家・理事)

覚知体験と行動

坂口 順 治

イエスの十字架の死と復活の季節が近づくと、私は女弟子たちの勇敢な行動を想起する。

最後の晩餐に招かれなかったし、ゲツセマネの苦闘の祈りにも立ち合わなかった女弟子たちは、イエスの十字架の死を現場で見とどけた。命を落とすという悲しい重たい事実に触れ、神がイエスの苦しむ姿の中におられることを感知し、十字架のイエスこそが神の子なのだと感じた。女弟子たちは、命の現場に出逢ったことが、更にイエスに従うつよい信仰生活へと変革した。

男弟子たちは現場から逃げた。政治的な判断や、自分も処刑されるという恐怖にさらされたのである。後になって、預言者の言葉を思い出して「我々の罪を背

負って行かれたイエス」として初代教会に受け継がれていった。と私は聖書の記者の記録を解釈したい。

もし「マリア」伝のような女弟子たちによる覚知体験記録が公認されて伝わっていたならば、もっとリアルに死と復活の事実を後世に伝えていたかもしれない。そして世界がより正しい方向へと影響を及ぼしていったかも知れない。

何故ならば、人間は重大な出来事に出会ったとき、五感に触れた生化学反応によって瞬時に変化する覚知体験（視・聴・味・嗅・触の五感とその共感覚の覚知によって生じる変化体験）が現れるからだ。強烈な出会いの体験をした女弟子たちは、

イエスの死と復活の出来事によって変わった。より情熱な信仰が日常の実践を深化して、より広く語られていったと思う。してみると初代教会時代の男女不平等社会にも想いを巡らしてみたくなる。

しかし、メディアとしての聖書はデー

タを記録したアーカイブだけではない。直接に触れた接点の覚知変化、つまり出会いの諸体験が記されているので、力動的な流れが伝わって現代につながっている。人々に伝え、愛の業をいとなむキリストの教えが連綿と今も伝わっている。

女弟子たちの強固な信仰と行動は、次の世代の人たちに共響の感動を起こさせ、心を動かして信仰生活へといざなっていた。初代教会の迫害時代を見ても、信仰の伝承は女たちが支えてきた。そこにはいつも現実の生活に根ざしながら、恩寵を感じ取ってつよく生きる信仰の姿が伝播力をもっていた。ここが男弟子たちと一寸違うように思う。

国連難民高等弁務官の緒方貞子さんは四十歳の時、はじめて国連総会に参加した。そのとき「私は台所から来ました」と自己紹介をした。家族の健康を守り、台所を仕切る生活者の立脚点から国連で活躍した。世界の紛争地域を歩き、リーダーシップを発揮した。そして緒方さん

は国連の仕事を変えた。現場主義を徹底したのだ。目の前で震えている人々に毛布や温かい食事を届ける工夫をして、観念主義の国連を現場主義に変えた。

カトリックのつよい信仰、平和と平等を実現する思い、生命の尊重と共生に生きる信念と行動は、多くの人たちに共感と変化をもたらした。

緒方さんに出会い、その信仰心の琴線に触れて、国連職員になった日本人女性も数多くいる。

「鉄の女」と呼ばれたイギリス初の女性首相マーガレット・サッチャーさんが、政治に自己責任と新自由主義政策を導入したのは有名だ。また、米ソの冷戦終結を導き、十一年余も実務的政治を遂行した。サッチャーリズムと呼ばれた彼女の姿勢は、自らの確信に基づいた信念の政治であった。合意や譲歩妥協を嫌う傾向があり頑固なタイプであった。しかし現実的で合理的で細やかな配慮をしていた。

サッチャーさんの父親はメンディストの説教師であった。彼女の信仰は父親の

影響が多であり、勤勉で情熱的、責任感が強く冷静な判断を下していく。しかも頑固なまでも個人の自律を強調しながら献身的であった。その揺ぎない人生哲学と不動の精神が人々を惹きつけ、長く国をリードしたのである。彼女的情熱と魅力の源泉は、十字架と復活の出来事を覚知し、生涯を貫いた鉄の棒のような信仰にあった。

ドイツの首相アンゲラ・メルケルさんは、ドイツへ宣教に出かけた父親の下で育った。ルター派の硬い基督教の倫理を身に着け、社会主義の東ドイツで精神形成をした。

統一後のドイツを経済大国にして環境、人権、原発全廃、難民受け入れ、気候変動に一番積極的だ。就任して二十年になる現在も、服装のスタイルは不変。一貫して質素なファッションで世界のトップ政治家を先導している。勤勉と協調、情熱と納得するまで頑張る姿は、他の政治家には類を見ない。

メルケルさんの所属する教派の大礼拝



には奨励説教者として、聖書学者をしのぐ学識と知見で、神の道を説き、人々の人権の大切さと世界平和を訴えている。まさしく今世紀前半の救世主のようだ。

女弟子たちが伝承する福音の光はかにた婦人の村、いずみ寮、茂呂塾保育園にも降り注いでいる。シユベスターたちとの共同体で生活をする人々、それを支える人たちは「底点志向者イエスに倣う」信仰によって日々是新の希望の人生を歩んでいる。神から息を吹き込まれて生きる命の大切さを覚知した人たちの光の束である。

(ベテスタ奉仕女
母の家・元理事)

*カットは、かにた会堂入り口のステンドグラス・ヘブル語で「マグダラのマリア」

茂呂塾保育園のページェント

春の号ですが、季節を遡って茂呂塾保育園のクリスマスの様子をお伝えします。

茂呂塾保育園では、年間を通して様々な行事を子どもたちと共にを行っています。今回は、一年の中で最も大切な行事であるクリスマスのページェントを台本に添ってご紹介したいと思います。



ヨセフさん驚かないでください
マリアさんに
もうすぐ
男の赤ちゃんが
生まれます
その赤ちゃんに
イエスと名前を
つけなさい
神様の赤ちゃんです

クリスマス物語

今から二千年昔のお話です。ユダヤの国、ナザレの村にマリアさんという心の優しい女がいました。マリアさんが一日の仕事を終えて静かにお祈りをしていますと、そこに



天の使いが現れました。

マリアさん驚かないでください
あなたにもうすぐ
男の赤ちゃんが生まれます



次に、マリアさんと結婚することになったヨセフさんのところにも天の使いが現れました。

ヨセフさん驚かないでください
マリアさんに
もうすぐ
男の赤ちゃんが
生まれます
その赤ちゃんに
イエスと名前を
つけなさい
神様の赤ちゃんです



神様ありがとう
ごさいます
どうぞマリアさんをお守りください



その頃、ユダヤの国では王様がとても威張っていました。王様は人々から税金を取るために、国中の人数を調べることにしました。

王様の命令です
よく聞きなさい
国中の人数を
調べます
皆、生まれた町に
帰りなさい
さあ急いで
帰りなさい!!



王様の命令を聞いて、皆、生まれた町に帰っていききました。マリアさんとヨセフさんもベツレヘムの町に帰りました。ついで頃には夜になり、二人は泊まる所を探しました。

どうか一晩
泊めてください
遠くから来たのです
疲れているのです

お客様で
いっぱいです
もっと早く来れば
よかったです



一軒目の宿屋さんにも、二軒目の宿屋さんにも断わられてしまい、とうとう村はずれの最後の宿屋になりました。

馬小屋でもいいですか
きれいに
お掃除してあげます
さあどうぞこちらへ

どうか一晩
泊めてください
遠くから来たのです
疲れているのです



親切な宿屋さんに案内されて、馬小屋に泊まる事が出来ました。

その夜、ベツレヘムの空に大きな星が輝きました。

私たちは星です
キラキラします
ピカピカします



お星さまは 0, 1, 2 歳児



その夜、ベツレヘムの野原では羊飼いが羊の番をしていました。
すると、あたりが急に明るくなって、天の使いが現れました。

羊飼いさんたち
怖がらないで
ください
今日、ベツレヘムの
馬小屋に
赤ちゃんイエス様が
お生まれに
なりました
神様の赤ちゃんです
さあ早く行ってござ
らなさい



びっくりしたね
赤ちゃんが生まれたんだって
僕たちも赤ちゃんを
見に行こう
ベツレヘムへ行こう
さあ急いでいこう



ちようど同じ頃、遠い東の国では3
人の博士たちが不思議に輝く星を見つけ
ました。

星が明るく輝いている
何か不思議なことが
あるのかな
調べてみましょう
分かったぞ
イエス様が
生まれた証拠だ
あの星を目当てに行こう
贈り物を持って行こう
さあ急いでいこう



私はクリスマスの
夜に輝いた
大きな星です
博士さん達を
ベツレヘムの
馬小屋まで
案内します



その夜ベツレヘムの馬小屋では、赤
ちゃんイエス様
がお生まれにな
りました。
これが二千年
前の最初のクリ
スマスの出来事
です。



以上が茂呂塾保育園のページエントの
様子です。アドベントの期間に入ると、
ページエントの色々な役を交代で楽しみ、
回を重ねるごとに、五歳児クラスにもな
ると、自然にセリフが口をついて出ます。
クリスマスには保育園中、ローソクを
灯し、沢山の飾りを飾ります。これらは
保育園の宝物と子どもたちに話していま
す。子どもたちと楽しむこのクリスマス
の出来事も、一人ひとりの心に残る大切
な宝物となることを願っています。

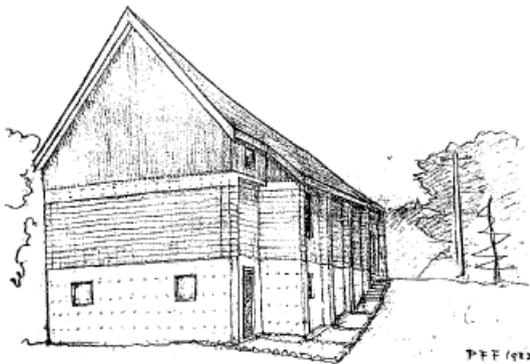
(根本 典子)

マタイ受難曲を聴く会

かいた婦人の村が出来てから17年目の1982年、世界中から深い祈りとともに寄せられた寄付金に、深津文雄牧師の朝日社会福祉賞副賞を加え、村人たちが総出でブロックを積み上げて建てた納骨堂付き会堂が。とうとう出来上がりしました。

深津牧師(初代ベテスタ奉仕女母の家館長)は、村人たちがそこに眠りたいと願った納骨堂付き会堂を、音楽と祈りに満ちた空間にしたいと、ちいさな会堂にふさわしいパイプオルガンを探していました。

世界的オルガン建造家・辻宏氏とヨーロッパ各地のオルガンを聴いて歩く旅に出かけた深津牧師夫



納骨堂側から見た会堂

妻は、イタリアのピストイアという古い田舎町の音楽院で、ジェンテイリ作の小さな歴史的オルガンに出会ったのです。このオルガンの奏でる「澄んだ柔らかい天上の和声(ミーン・トーン)」こそ、かにた会堂に最もふさわしいものだ、と、さっそく辻宏氏に複製の製作をお願いしました。

もうひとつ、会堂にはすばらしい真空管アンプのレコードプレイヤーが備えられました。知る人ぞ知る、館山・コンコルドの佐久間駿氏製作のもので、タソノイのスピーカーから流れる音は柔らかく自然で、天井の高い会堂に余韻を残してくれるものでした。

深津牧師は、ベテスタ奉仕女母の家創立までの一時期、NHKラジオチャーターで「旧約文

学」「聖書の真髄」を28回放送した後、輸入盤のレコードで、「日曜レコード・バッハ」を160回、「バッハを遡る」を12回放送し、「バッハ研究会」やバッハのレコードコンサートを主宰していました。

かいた婦人の村に入ってから、受難週にはごく少数で「マタイ受難曲」を聴いていました。これは、単に素晴らしい音楽を聴くということを超えて、「バッハを通してイエスに会いたかったのだ」と書いているように、イエスの受難に向き合う時間だったのです。

かにた会堂に、背丈ほどもある一對のスピーカーが佐久間氏の「バッハのために」と刻印された真空管プレイヤーと共に設置されると、それからは「ひとりでも聴くのはもったいない」と、村人たちもさそって聴くことになりました。

夕方6時からの「マタイ受難曲を聴く夕べ」に、深津牧師は、「イエスが苦しんでいるのに、飯なんか喰ってられるか」と、夕食抜きで黒服に身を包んで会堂に上って行きました。村人たちだけではな

く、遠く青森から毎年泊りがけでマタイ受難曲だけを聴きに来るY氏は、終わると静かに帰っていききました。また、地元と呼びかけたこともあります。16年前からは、「みんなで聴きたいので昼間にしてほしい」という職員の申し出により、午後の時間に聴くことになりました。

今は、新しく設置された佐久間駿氏の真空管CDプレイヤーでカール・リヒター指揮の1958年版を聴いています。マタイ受難曲は、通して聴けば3時間半の大作。かたでは、聖木曜日に第一部(ベタニアの香油・最後の晩餐・ゲツセマネの祈り)を、聖金曜日に第二部(偽証・大祭司ピラトの審問・イエスの引渡しと鞭打ち・十字架・埋葬)を2日間に分けて聴きます。

この受難曲は、聖書の「マタイによる福音書」の言葉をそのまま「福音史家」が歌って物語をすすめる、その間にピカンダーの美しい詩が、合唱やアリアによってちりばめられています。

歌詞はドイツ語なので、手元の対訳を

頼りに聴いてきましたが、13年前に思い立って、パワーポイントによる字幕を作成。3センチもある重たいスコアを膝に乗せ、スクリーンと楽譜とをにらみながらクリックしていき、くのは、いくら楽譜が読めても気が抜けない作業ですが、ピカンダーの詩も、村人たちに分かりやすい言葉にしようとして

しています。しかし、バッハの音楽は言葉を超えて、イエスの受難の情景を写實的に伝え、聴く者の感情に訴えかけてくるので、文字

の読めない村人たちでも、ここはゲツセマネの月の光、ここはノコギリの音、こ

41 O Mensch beweine deine Sünde groß

1 ひとよながつみの おいなるをなげき くいそなみだせよ
このゆえにキリスト ちちのもとをさり このよにぎませぬ
しにたるをいかし やまいをとさり ついにときいたり
ひとのつみのため じゅうじかの あがない おえさせたまはぬ

Sebald Heyden 1525, Mattheus Greitter 1525 深津文雄訳

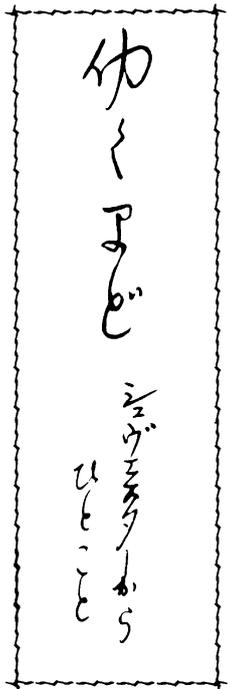
マタイ受難曲第一部最後のコーラル

な説明をして聴き始めると、ちょうど3時に「イエスはふたび大声に呼ばわりて、息絶えたもう」というところにきます。オルガンによる「かすかなふたつの音」を聞き逃すまいと、耳を澄ませます。そして、第一部の終わりには、「ひとよながつみの」をみんなで歌います。聖トーマス教会でも、この日マタイ受難曲が演奏されているのです。

ピカンダーの詩と、バッハの優れた音楽があつて初めて聴く者がペテロと共に涙し、祈ることができる。この時間があるからこそ初めて、輝かしいイースターの朝を迎えられるのです。

(かいた婦人の村 塩川成子)

*今年の聖木曜日は4月9日、聖金曜日は4月10日です。どうぞいらしてください。



私は今、ベテスダ奉仕女母の家の近くの老人施設でくらしして居ます。

日曜以外は毎日歩行の訓練など運動をし、起床から夜の消灯まで規則正しく生活して居ますので、そのうち外にも出かけられるようになると思います。イースターには教会に行けるのではないかと希望を持って楽しみにしています。

祈りの友の皆様、その他関係の皆様にも神様のお守りが豊かにありますようにお祈りいたします。 眞山 知恵子

*
二月に入り、凍るような冷たい日に近くの庭先で「蠟梅」が美しく咲き、植物の強さに圧倒されています。

私は以前から「森のイスキア」を建てて社会で行き詰った人の相談をされていた(故)佐藤初音さんの生き方に共感して

シヴエスターから
ひとこと

いました。人生の歩みの中で、起伏が大きく、若き日にキリスト教に出会ったところが心の優しさを生み出したと伺う。お会い出来ずに悔いています。 細井 陽子

*
書く文字の変らぬ便り冬ぬくし

折々の哀歎の詩(うた) 小雪舞ふ

「政・官」の寒々として虚しかり

隙間風こころの隙間吹きぬけぬ

冬枯れて被災地の傷癒え難く

*
植木 道子

元気で過ごしています。食事もおいし

く食べられ、テレビでプロ野球のオープン戦を楽しんでいます。 桜庭 歌子

*
元気で過ごしています。自分のペースでテレビを見たり、ホームの家事の手伝いをしています。今は庭仕事はできないけれど、毎日15分くらい散歩に連れて行ってもらっています。 小川 都代

相浜ガーデンでくらししているシュヴエスター歌子とシュヴエスター都代の生活の様子をスタッフの方に聞きました。

*
いま、世の中が新型コロナウイルスの脅威とたたかっている中で、当然かた村の中でも、不安と緊張感を抱えつつ対応しているところです。

この中で、春を告げるように鶯の声が聞かれ始めました。今年は殊に、自然の広々とした空間の中での暮らしが、いかに恵まれ、有難いことか、美しい声に改めて思わされています。

どうか、人間の英知が、一刻も早い終息をもたらすよう祈るばかりです。

天羽 道子

賛助金・クリスマス献金

ありがとうございました

Miyoko Anli フェリス女学院中学校・

高等学校 ベテスダ姉妹会 安東優 伊

藤隆史 井上京子 遠藤恵美子 横田碩

子 横野朝彦 加藤美都子 加藤明彦

河本藤子 河野健児 花田こずえ 学校

法人育英学院日黒サレジオ幼稚園 学校

法人武庫川幼稚園 貫井大輔 関西学院

宗教活動委員会 関本郁子 岩崎祐子

菊池幸男 吉田実生 宮崎康久 宮山成

子 峡南幼稚園 金指頼子 金澤朋広

古田土直寿 後藤信子 広瀬公男 江村

政子 国際基督教団代々木教会 黒川裕

子 黒田恭介 今井佳代 今井直子 佐

藤聡美 細田和民 坂口節子 埼玉新生

教会 三浦恒美 山下朋子 山上洋子

市橋みはる 自由学園女子部卒業生会

柴山操 酒井忍 宗形友子 小金教会婦

人会 小谷志保 松崎敏 上松英俊 森

戸隆夫 森史子 深津恵太 深田光代

神代英理 水戸中央教会 水野圭子 瀬

戸真知子 成瀬雅也 聖学院小学校 西

千葉教会 斉藤恵美子 石神井教会 石

塚久江・八重 石田友雄 川口博司 浅

野康子 村田英彦 村田充子 大洲幼稚

園 大沼昭彦 大曾根聡子 大沢真理子

大竹信義 大槻圭史 大浜重紀 大野

恵理子 大柳龍一郎 大和キリスト教会

支援委員会会計・丹羽佳也子 但野明子

池田直子 稚内光幼稚園・きらきら保

育園 長谷川寿美子 坪野あや 坪野吉

孝 田浦教会 田浦教会エレミヤ会・田

澤文雄 杉田寛子 田村牧子 田村和子

田中裕子 渡辺きぬよ 渡辺進 渡辺

茂子 東北学院理事長松本宣郎 東洋英

和女学院小学部母の会 東洋英和女学院

中学部高等部母の会 藤巻ひとみ 藤巻

契司 藤巻恵子 藤巻和司 藤原由美子

日本基督教団三田教会 日本基督教団

松戸教会 日本基督教団静岡教会 日本

基督教団ひばりが丘教会 日本基督教団

阿佐ヶ谷教会 日本基督教団横浜菊名教

会 日本聾話学校 日本基督教団佐倉教

会 日本基督教団秋津教会 日本基督教

団上富坂教会 日本基督教団信州教会

日本基督教団新津田沼教会 日本基督教

団清水ヶ丘教会 日本基督教団鎌倉教会

日本基督教団東村山教会 日本基督教団

門司教会婦人会 畑村直樹・留美子 畑

和雄 八田満千子 飯山康子 飯塚光喜

富山紗和子 富室磨致子 富島裕史

布施讓 普連土学園宗教委員会 平山嘉

繁 野瀬陽子 野呂尚子 余郷志津子

鈴木健司 鈴木純子 鈴木誠 鈴木和

男・奈都子 霊南坂教会 頌栄女子学院

11月～2月末日分(敬称略)

おしらせ

★ 訃報

長い間、祈り支えてくださった今堀愛子姉（佐久間桂子の祈りの友、のちみんなの祈りの友）が昨年召天されました。

ご夫妻ともに、長い間お支えくださいました山神康兄が、昨年11月19日召天されました。89歳でした。

永遠の平安をお祈りすると共に、生前のお交わりを感謝いたします。

ご家族の方々の上に、天父の深い慰めと平安がありますように。

★ 理事会報告

第226回理事会 11月28日（木）

於 茂呂塾保育園

【報告】

第1号 かにた婦人の村台風被害復旧

並びに建替え補助金の件

第2号 業務執行理事報告の件

【審議】

第1号 平成31（2019）年度

第一次補正予算の件

第2号 茂呂塾保育園・園規則改定の件

件

第3号 定例理事会並びに定例評議員

会日程案の件

いずれの議案も承認議決されました。

第227回理事会 2月22日（土）

於 茂呂塾保育園

【報告】

第1号 かにた婦人の村建替えの件

第2号 業務執行理事報告の件

【審議】

第1号 平成31（2019）年度

第2次補正予算案の件

いずれの議案も承認議決されました。

★ 施設だより

今回は、茂呂塾保育園が「レストラン

ごっこ」について書く予定でしたが、感

染症のために中止になってしまいました。

代わりに、保育園のクリスマスマスの様子を

紹介させていただきます。お楽しみくだ

さす。

★ 編集後記

主の大きな御名を賛美いたします。

皆さまにお寄せいただいたご支援に、心から感謝申し上げます。

教会歴では、3月1日より受難節に入り、聖壇のクロスも紫色に変わりました。

受難週を過ごす大切な時間・かにた婦人の村の「マタイ受難曲を聴く会」についても紹介いたします。今年は、各々の

場所でマタイ受難曲が聴かれると良いなと願っています。

2020年3月15日発行（年3回）

発行人 大沼昭彦

編集人 村田英彦

印刷所 (株)印刷センター

発行所

〒178-0006 1

東京都練馬区大泉学園町7-17-30

社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家

電話 03-3924-2238

<https://www.bethesda-dmh.org/>

振替口座 001900-2-138164